

新潟県薬剤師会 薬剤師ボランティア活動報告書

班名	P 班	報告日	平成 23 年 5 月 31 日
報告者氏名	小林 賢司	同行者氏名	平山 永愛
活動期間	5 月 23 日 ~ 5 月 26 日	宿泊場所	石巻薬剤師会 仮事務所
活動拠点	①石巻薬剤師会 仮事務所 ②バイタルネット 石巻支店	ジャニファへの掲載	掲載してもよい
交通手段	自家用車		
主な活動 (簡潔に)	ヤンマー仮設診療所における調剤・投薬業務及び院外処方箋の発行補助 女川体育館避難所内救護所における調剤・投薬業務		

<活動の内容>

現在の被災者支援に関する方針は、1)自立を促す、2)震災前の医療レベル以上のことはしない、となってきた。その一方でスーパー2階の駐車場横にある倉庫に避難されている被災者や、移動手段がなく受診するにはかなりの距離を歩かなければならない被災者もいるといった状況。今後はこの方針の中で、「自立できる被災者」と「支援が必要な被災者」を見分け、見合った医療を提供していくことが重要となると考えられる。

また、夏に近づくにつれ、公衆衛生に関して薬剤師に大きな期待が持たれている。殺虫剤をペットボトルに入れ、誤飲した事故もあるなど、薬剤師が大きな役割となると考えられる。

薬剤師のボランティア業務が大きく変動する狭間の時期であり、しっかりと方針を理解し被災者や被災地のために自分が何をすべきかを考える必要があると感じた。

①ヤンマー仮設診療所における活動内容 (小林)

●5月24日(火) 9:30~15:00

⇒患者数9名 (院内調剤5名 院外処方箋発行4名)

大分県 JMAT とペアとなる。

1名は、がれき除去作業中に釘を踏んでしまった患者。沈降破傷風トキソイド投与。フロモックス院内処方

●5月25日(水) 9:30~15:00

⇒患者数8名 (院内調剤1名 院外処方箋発行7名)

院内調剤した患者は車もなく、医院や薬局行けない方。

小児に対し院外処方箋発行されたが、規格等の記載不備があり医師に指摘。周辺薬局に在庫をしてある薬剤を考慮しながら処方内容の監査を行う。午後は避難所3ヶ所への往診へ同行。

- ・患者数は平均15名/日前後。避難所内や避難所に隣接しているわけではなく、ヤンマー様の駐車場に仮設診療所を設置させていただいている状態。
- ・診療は、主に急性疾患の患者を受け付けている。慢性疾患患者に関しては、交通手段がある場合は次回から復興して開院されている近隣医院へ受診するよう促す。
- ・調剤は、院内調剤をなるべく避け、復興して開局されている保険薬局への院外処方箋持参を促す。車等がなく移動手段がない場合は、院内調剤もしくはメロンパンチームに日赤から調剤した薬剤を診療所にもってきていただき、お渡しする。
- ・院外処方箋発行時の処方内容監査や院外処方箋についての説明、受け付けてくださる保険薬局の在庫の確認と患者への案内等を重要業務とするよう方針転換してきた。また、この方針を継続するよう引き継ぎを依頼してきた。
- ・「無料だし、すぐに診てもらえるから」と仮設診療所に訪れる方がおられた。
- ・地域の医院や保険薬局に患者を誘導することは、その医療機関で診療報酬や調剤報酬を請求することができ、地域が活性していくということに繋がっていくと考えられる。

②女川町立病院（平山）

●5月24日（火）8:00～12:00

⇒患者数97名（再来79名 新患18名）

1階ロビーに仮設の薬局を設け業務を行っている。午後も受け付けており、1日の患者数は約140人。

午前中は町立病院スタッフ2名、地域医療チームよりの応援1名、ボランティア2名での業務。

主に調剤、薬袋作成、投薬にあたる。

- ・女川地区は津波の被害がひどく、地域の医院、保険薬局など流されてしまい他に医療機関はないため、新患の多くは今まで他の病院で診てもらっていた患者であった。
- ・「保険診療を再開している状態の町立病院でのボランティアの必要はないのでは？」とも思われるが、支援の医師が入っていることで多くの患者を診ている。そのため、薬局でも一度に多くの処方箋を受け付けることになり、人手不足となっているようだ。
- ・保険診療の再開により14日処方から28日処方へ切り替わってきており、在庫管理の見直しが必要となる。
- ・一包化調剤は行えていない状態であった。

③女川体育館避難所内救護所（平山）

●5月24日（火）14:00～16:00

⇒患者数17名

医師1名、看護師1名、薬剤師1名の救護所での業務。

医師からの指示書を元に調剤、投薬を行う。全ての患者にお薬手帳を作成。

- ・診察開始30分前より患者が4、5人待っている状態で15分前より診察開始。調剤、薬袋作成、手帳作成、投薬を一人でするのは忙しい業務であった。
- ・急性疾患の患者がほとんどで、アスベリン錠、ムコダイン錠、トランサミンカプセルの在庫が厳しい状態に。今までは近くの女川病院から薬を分けてもらっていたが、同病院の保険診療が始まりそれができなくなったとのこと。救護所を縮小、廃止の方向に話が進んでおおり薬品の供給についても今後行政が担当するとのこと在庫がなくなったら患者に近くの女川病院へ行くように伝えて欲しいとの指示であった。
- ・救護所をいつまでやるのかが明確でないまま薬品の在庫がなくなればそれまで、という体制で本当に良いのかと疑問を感じ（医師も同意見）、同日夜のミーティングで現状を報告した。

●5月25日（水）9:00～16:00

⇒患者数7名（午前4名 午後3名）

医師2名、看護師1名、薬剤師2名での業務。

業務内容は前日と同様。

- ・前日の担当医師が日赤病院からわけてもらった薬を持参。今後は日赤病院から薬をわけてもらえることになった。
- ・昨日の報告後、薬の供給は薬剤師会で行うことが決定したとのこと薬剤師会会長、副会長が来られ、医師に直接説明にあたっていた。
- ・地域の自立を促すため仮設の診療所や避難所内救護所を縮小しボランティアの数も減らしていく段階へ進めていかなければならないのだが、地域の復興状況も違うためそれに見合った活動をしていかなければならないと感じた。

④避難所循環（OTC聞き取り、公衆衛生管理）（平山・小林）

●5月26日（木）8:00～11:30）

⇒石巻市立山下小学校を訪問。

前日に依頼されていたOTCをお届け。

駐車場にいらしゃった避難者から声をかけられ、「薬をずっと飲んでいない。ウルソ錠とグリチロン錠だが、もらえるか？」との事だった。JMAT等の巡回は来るが自分はいつも出かけていて診てもらっていないとのことだった。ヤンマー仮設診療所のことを伝え、まずはすぐに受診するよう伝えた。

・JMAT等の医療チームが巡回しているが、全ての避難者がその時間に避難所にいるわけではない。避難所の管理をされている方もボランティアであるため、交代が頻繁であり、その現状はしっかりと把握できていない。受診勧告を行う必要があると考えられ、本日の夜のミーティングで伝達してもらおうよう他の薬剤師に依頼。

以上